

株主のみなさまへ

第17期 第1四半期 決算のご報告

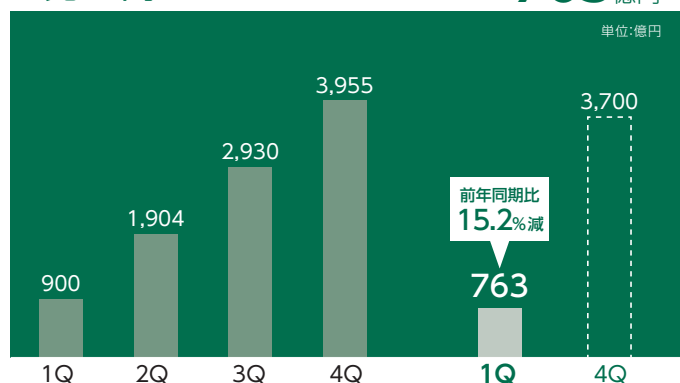
2020年4月1日から6月30日まで

連結業績ハイライト

売上高

763億円

単位:億円



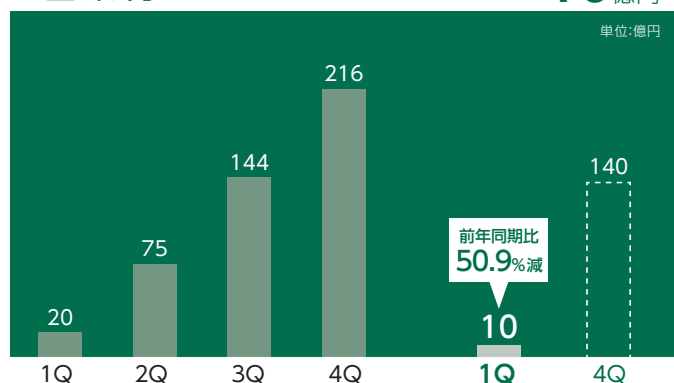
2020年3月期

2021年3月期

営業利益

10億円

単位:億円



2020年3月期

2021年3月期

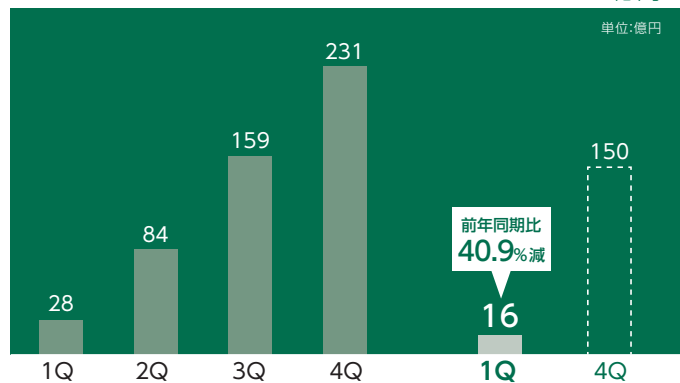
のれん等償却前営業利益
(2021年3月期1Q)

15億円(前年同期比39.8%減)

経常利益

16億円

単位:億円



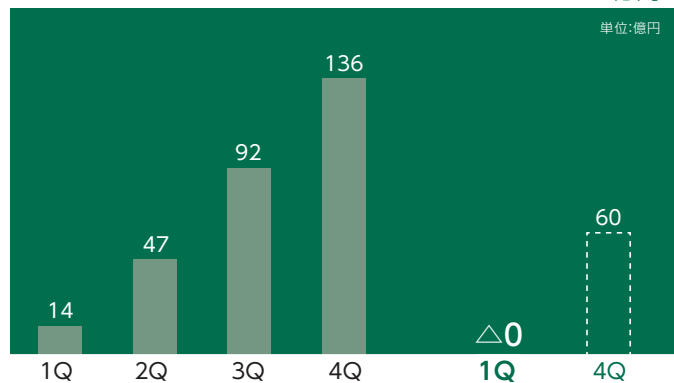
2020年3月期

2021年3月期

親会社株主に帰属する 四半期(当期)純損益

△0億円

単位:億円



2020年3月期

2021年3月期

のれん等償却前親会社株主に帰属する
四半期純利益(2021年3月期1Q)

5億円(前年同期比74.4%減)

[当期の見通し]

各国における行動制限措置の緩和等を受け、現時点で入手可能な情報や予測等に基づき、通期連結業績は減収減益を予想いたします。
当連結会計年度末にかけては、経済の回復に伴い当社各拠点の生産及び販売活動が正常化するという前提において見積もったものであり、新型コロナウイルスの収束状況に応じて変動する可能性があります。

主として国内および海外の自動車メーカー向け販売減少などにより、減収減益となりました。

TOP MESSAGE



平素より格別のご高配、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。
さて、ここに第17期(2020年4月1日から2020年6月30日まで)の業績や取り組みについて、ご報告申し上げます。
当第1四半期連結累計期間における世界経済は、世界的な新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、景気が大幅に悪化しました。段階的に経済活動を再開していくものの、新型コロナウイルスは現在も世界各国で感染拡大を続けており、先行き不透明な状況が続いております。

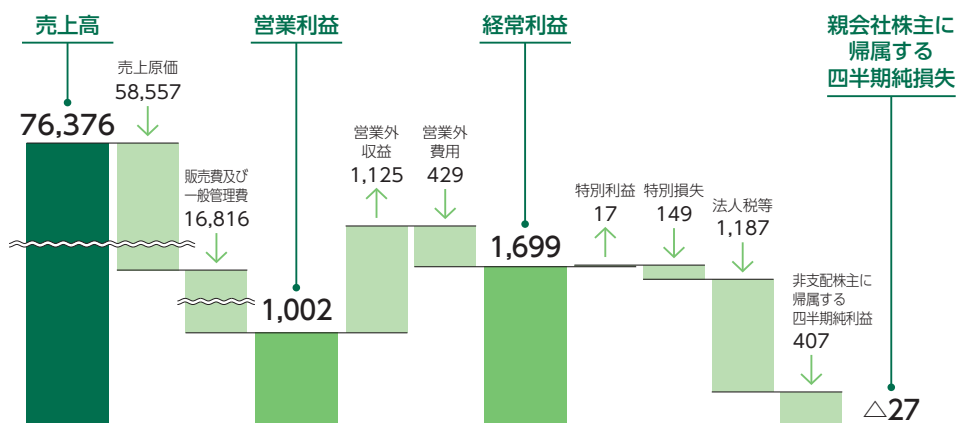
このような経済状況の中、当社グループでは、主としてプラグインハイブリッド車用リチウムイオン電池や、国内外の自動車新車向け鉛蓄電池における販売減少などにより、当第1四半期連結累計期間の売上高は、763億76百万円と前第1四半期連結累計期間に比べて137億6百万円減少(△15.2%)しました。これに伴い、営業利益は10億2百万円(のれん等償却前営業利益は15億67百万円)と前第1四半期連結累計期間に比べて10億37百万円減少(△50.9%)、また、経常利益も16億99百万円と前第1四半期連結累計期間に比べて11億74百万円減少(△40.9%)しました。親会社株主に帰属する四半期純損失は、経常減益に加えて、収益力低下に伴い繰延税金資産の回収可能性を加味した結果、27百万円(のれん等償却前親会社株主に帰属する四半期純利益は5億21百万円)と、前第1四半期連結累計期間に比べて15億1百万円の利益減(前第1四半期連結累計期間は14億73百万円の利益)となりました。

代表取締役
取締役社長 **村尾 修**

連結損益計算書

[当第1四半期(累計)] (2020年4月1日~6月30日)

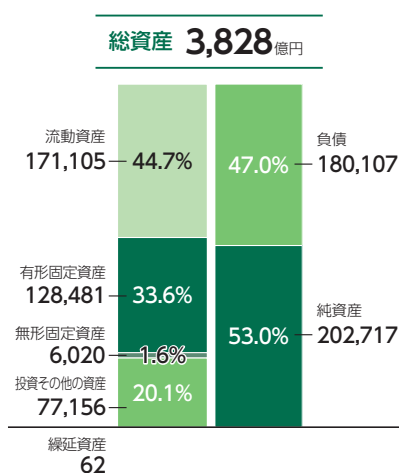
(百万円)



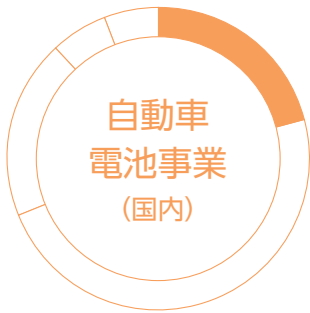
連結貸借対照表

[当第1四半期末] (2020年6月30日)

(百万円)

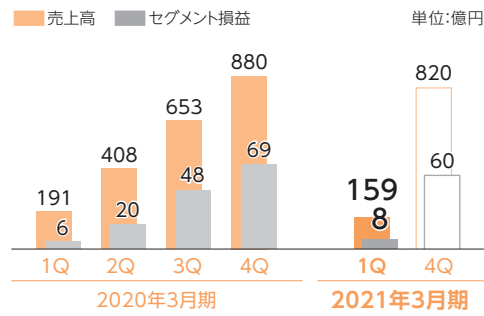


[セグメント別連結業績]



売上高
159億円

構成比
20.9%



売上高
前年同期比
16.7%減

補修用需要が堅調に推移しましたが、自動車新車の生産が大幅に減少したことによる新車用販売数量の減少に加え、鉛価格の下落に伴う販売価格の低下の影響により減少。

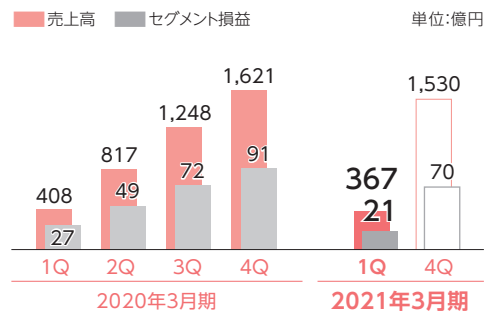
セグメント損益
前年同期比
47.3%増

補修用販売増加により増加。



売上高
367億円

構成比
48.1%



売上高
前年同期比
10.0%減

各国における新型コロナウイルス感染拡大の影響により販売が減少したことにより減少。

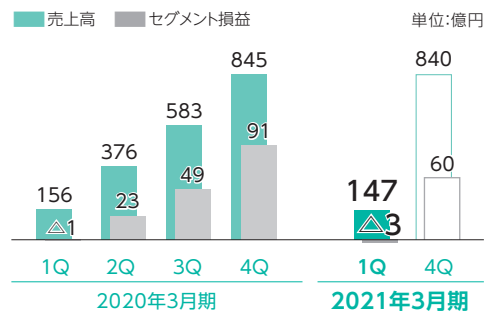
セグメント損益
前年同期比
19.8%減

鉛価格の下落や経費減少などがありましたが、売上高減少の影響により減少。



売上高
147億円

構成比
19.3%



売上高
前年同期比
5.7%減

主として通信事業者向け電源装置が一巡したこと、およびフォークリフト用鉛蓄電池の販売減少により減少。

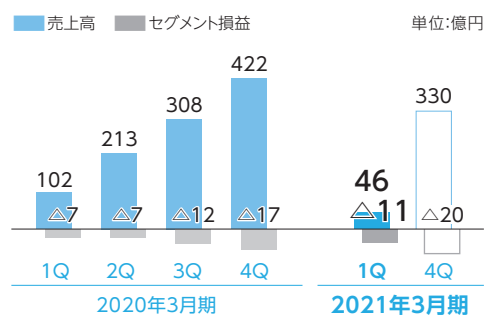
セグメント損益
前年同期比
—

鉛価格の下落はありましたが、売上高減少の影響により悪化。



売上高
46億円

構成比
6.1%

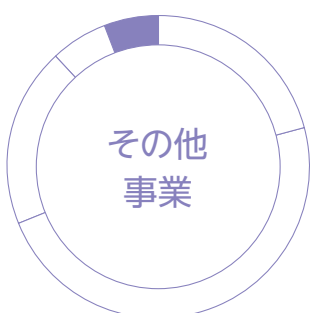


売上高
前年同期比
54.3%減

主としてプラグインハイブリッド車用リチウムイオン電池の販売が減少したことにより減少。

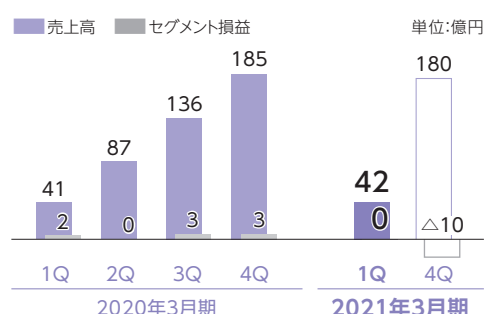
セグメント損益
前年同期比
—

売上高減少の影響により悪化。



売上高
42億円

構成比
5.6%



売上高
前年同期比
1.3%増

潜水艦用リチウムイオン電池が順調に推移したことにより増加。

セグメント損益
前年同期比
94.0%減

特殊用途向け電池の売上高減少の影響により悪化。

(注) セグメント損益はのれん等償却前営業利益です。

TOPICS

当社の車載用リチウムイオン電池が
トヨタ自動車ハイブリッドシステム(THSII)に初採用

当社が販売する車載用リチウムイオン電池「EHW4S」が、トヨタ自動車株式会社(以下、トヨタ自動車)のハイブリッドシステム(THSII)に初めて採用され、トヨタ自動車が2020年6月17日に発売した新型ハリアーのハイブリッド仕様車に搭載されました。

「EHW4S」は、優れた低抵抗化技術の採用により、入出力特性を当社従来製品と同等とした上で、ハイブリッドシステムに求められるエネルギー量を最適化し、当社従来製品から10%以上

の軽量化と20%以上の小型化を実現。

そのセル・モジュールは、GSユアサグループの株式会社ブルーエナジーが製造しています。

ハイブリッド車のさらなる需要拡大に対応するため、株式会社ブルーエナジーでは前期に第二工場新設(2022年度稼働開始目標)にも着手しており、2023年度までにこれまでの倍以上の約5,000万セル/年の生産能力に引き上げる計画です。



「ハリアー」



「EHW4S セル・モジュール」

最新情報

サンケン電気株式会社の社会システム事業譲受に関する株式譲渡契約を締結

当社の産業電池電源事業を取り巻く市場環境は、IoTの普及によるデータセンターの新設・増設や国土強靱化政策による非常用電源の需要拡大が期待される一方、競争は激化しており、今後もその激しさを増していくと予想されます。

このような環境の下、サンケン電気株式会社およびGSユアサグループが培ってきた技術力・開発力を融合させることにより、本件事業譲受のシナジー効果を着実に重ね、豊富な製品ラインアップと充実したサポート体制により、電力バックアップ用途以外の新規市場も含めた競争力の強化を図るとともに、安心・安全な社会基盤の構築に貢献していきます。

譲受対象	サンケン電気株式会社の社会システム事業
事業内容	電源機器製品の開発、製造、販売、保守、点検、バッテリー交換等の作業及び修理、施工計画、搬入、据付、配線工事及び現地調整試験等。
売上高(2020年3月期)	約125億円

譲受価額 約48億円

スケジュール 2020年8月4日 株式譲渡契約書締結
2021年4月1日 本事業譲受日(予定)

会社概要 (2020年6月30日現在)

商号 株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション (GS Yuasa Corporation)

事業目的 電池を中心とした事業を営む傘下のグループ企業の経営戦略を策定、統括し、グループの企業価値の最大化を図る。

設立 2004年4月1日

資本金 33,021百万円

本社所在地 京都市南区吉祥院西ノ庄猪之馬場町1番地
電話(075)312-1211

ホームページ <https://www.gs-yuasa.com/jp>

上場金融商品取引所 東京証券取引所 市場第一部

ホームページのご案内

より詳しい情報は、
当社IRサイトをご覧ください。

<https://www.gs-yuasa.com/jp/ir/>

こちらから
アクセス
できます。

